

令和7年2月27日(木)  
(2025年)

保護者の皆さま

吹田市立青山台小学校  
校長 田淵 久美子

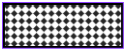



## 令和6年度「学校教育診断アンケート」結果分析について

向春の候、皆さまにおかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、12月に実施しました学校教育診断アンケートにつきまして、ご報告させていただきます。保護者の皆さまからのご回答率は今年度も約90%と、高い回答率をいただき感謝いたします。

以下に集計・分析結果をお伝えするとともに、いただきました貴重なご意見を真摯にうけとめ、次年度への改善のため、教職員一同さらなる努力を積んでまいりたいと存じます。

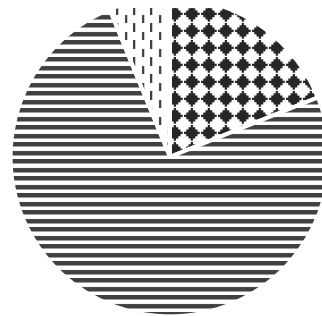
回答は4択 保護者→**保** 1.2年生→**低** 3.4.5.6年生→**中高**

とても思う		そう思う	
思わない		まったく思わない	

**保** 学校教育目標を知っている



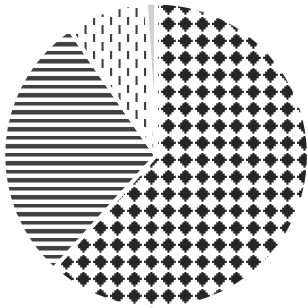
**保** 学校は一人ひとりを大切に、誰一人も取り残さない幸せな学校づくりに努めている



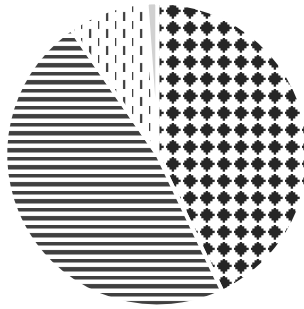
「学校教育目標」や「教育方針」を保護者の皆様にご存知いただき、理解していただくことは、私に与えられた使命の一つであると、心得ております。今回約7割の皆さまから、学校教育目標を知っているとの肯定的な回答をいただきました。今後も皆さまとともに目標達成へ向けて邁進してまいります。

「幸せな学校づくり」……幸せな子どもと幸せな大人が学校をつくる！ それには一人ひとりを大切に誰一人も取り残さない！ これは、私の学校経営理念、経営ビジョンです。4月当初、全教職員で確認し、全教職員が一丸となり学校づくりに努めております。94%の肯定的回答をいただき、大変嬉しく思います。

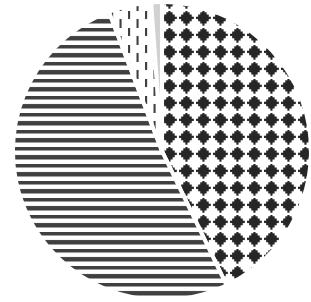
低 学校へ行くのが楽しい



中高 学校へ行くのが楽しい

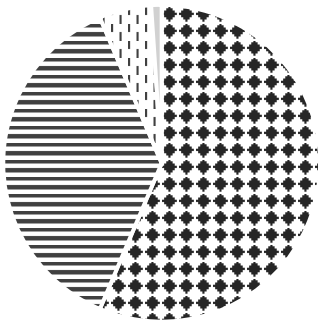


保 子どもは学校へ行くのを  
楽しみにしている

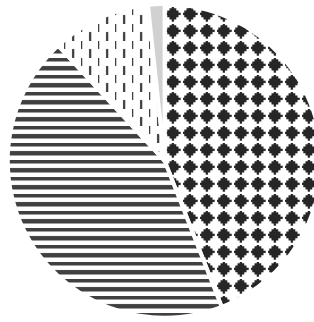


「学校へ行くのが楽しい」の設問では全学年9割の子どもたちが肯定的回答をしています。保護者の皆さまには94%との肯定的回答をいただきました。学校が楽しくなくては子どもたちの意欲や達成感も育めません。「明日も学校行きたいなあ」「学校に行くのが楽しみだなあ」と、子どもたちのつぶやきが増えるような学校をめざします。

低 授業はわかりやすい



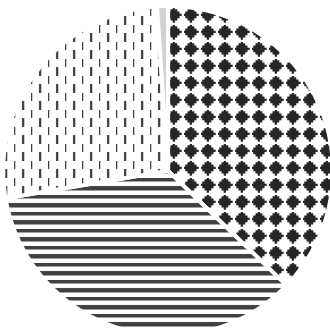
中高 先生は工夫をしているので  
授業がわかりやすい



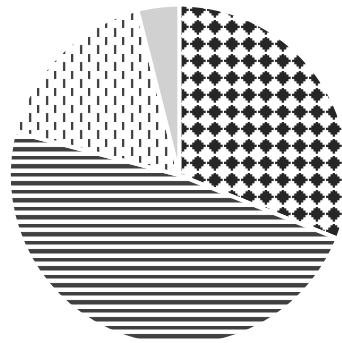
保 教職員はわかりやすい  
授業・工夫された授業  
づくりに努めている



低 授業中、たくさん発表する



中高 授業で自分の思いや考えを伝えることができる

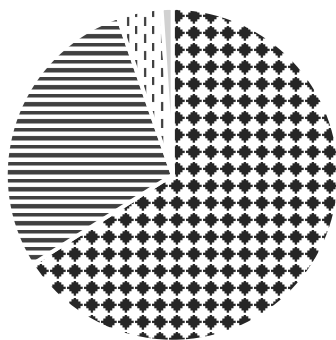


上記のグラフは、授業中での直接的なことをまとめたものです。ここでは課題について取り上げます。低学年「授業中、たくさん発表する」中高学年「授業で自分の思いや考えを伝えることができる」の設問です。(どの学年も8割弱の肯定的回答)

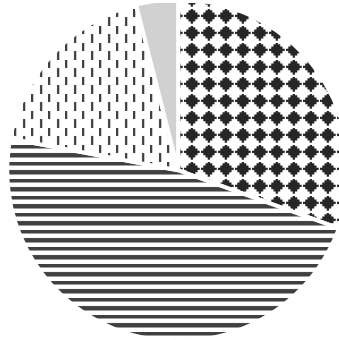
何よりも挙手をして発表することが良いとは考えておりません。一人ひとりの子どもの個性があります。また、その時の子どもの体調も影響します。ただ、コミュニケーション能力は必要です。その大切さは、社会で生きている私たち大人が十分すぎるほど理解しているのではないのでしょうか。だからこそ、子どもたちへは、「生きる力」として「話すこと」「発表すること」「まとめること」「プレゼンできること」などの資質・能力をつけたいと思います。

「授業づくり」は高い肯定的回答で、特に保護者の皆さまからは94%いただきました。

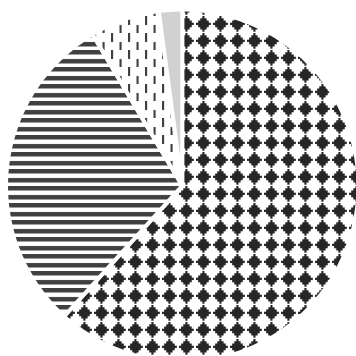
低 困ったときやわからないときは、先生に聞くことができる



中高 授業でわからないことについて先生に質問しやすい



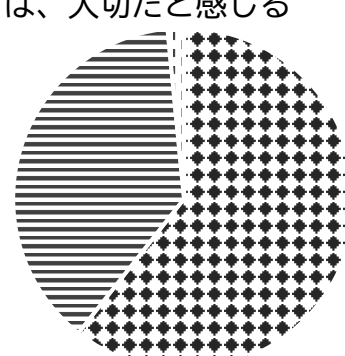
低 自分から学ぼうとしている



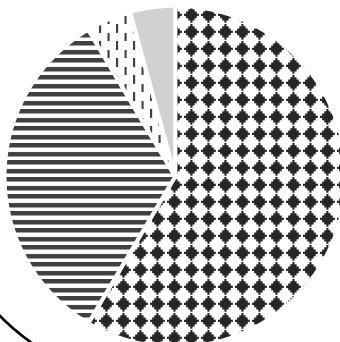
中高 自ら学ぼうとしている



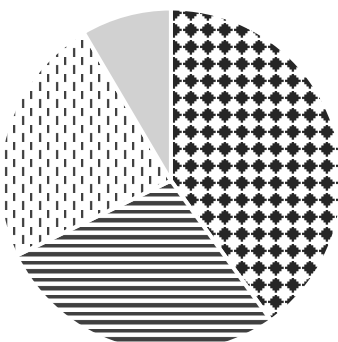
保 重点取組「子どもたちが自ら学び考え発信する力」は、大切だと感じる



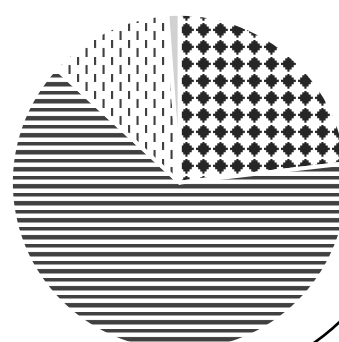
低 図書室にたくさん行きたいと思う



中高 図書室にたくさん行きたいと思う



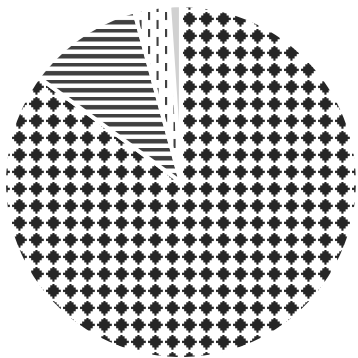
保 子どもは家庭学習(宿題・自主学習・読書等)が、身につけている



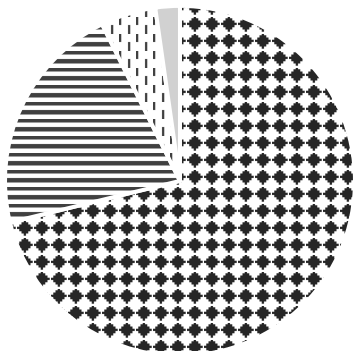
重点取組の1つ「インプット・インテイク・アウトプット」(自ら学び自ら考え自ら発信)は子どもたちにつけたい「生きる力」の大切な軸となります。上記の結果から保護者の皆さまにご理解いただけていると感じました。(99%の肯定的回答)子どもたち自身も、随分意識してきています。(低学年92%・中高学年85%)

課題も見えました。「図書室にたくさん行きたいと思う」の設問、低学年では9割強の子どもたちが肯定的な気持ちがある反面、中高学年では7割に満たない結果となっています。活字離れ・蔵書の内容(種類)・時間的なこと等、個々に理由が違っていたり、様々な理由が重なっていたりすると思います。「読む」(読書)だけでなく、調べ学習の有効活用や紙媒体の良さ等、工夫して発信する必要があります。読書支援員と連携し、「読む」から「読みたい」と感じる魅力ある学校図書館(図書室)づくりをめざします。

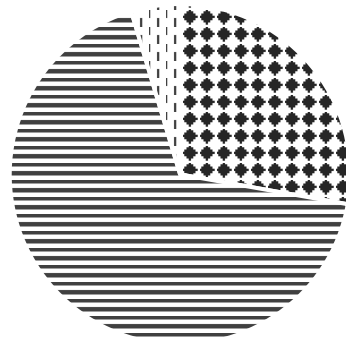
低 運動会や音楽会、遠足などの行事は楽しい



中高 運動会や音楽会、遠足や宿泊学習などの行事は楽しくやりがいがある



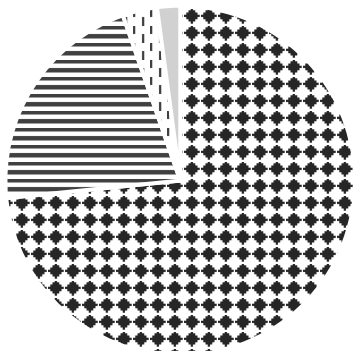
保 子どもは特別活動（学校行事・児童会行事・清掃活動・校外学習・体験学習・宿泊学習）を通じて自主性や実践力が育っていると感じる



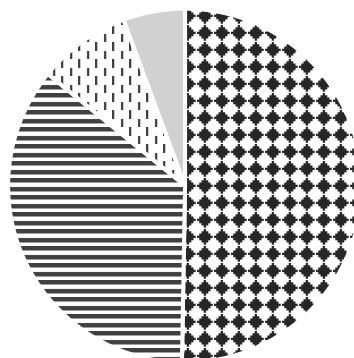
全学年9割以上の肯定的回答です。保護者の皆さまからは95%の肯定的回答をいただき、大変嬉しく感じております。

子どもたちが自分たち自身で、楽しみながら行事をつくりあげていく教育活動（プロセス）を通して、子どもたちの資質・能力を育てています。子どもたち自身でつくる、とは言っても、必ず大人の手を必要とする場面があります。そんなときに、「先生たち（大人）の力を借りよう」と、考えだし、人を活用しようとする能力が求められます。さらに、「手伝ってほしい」「助けてほしい」「教えてほしい」と、アウトプットできることも大切です。

低 給食はおいしく、楽しみにしている



中高 給食はおいしく、楽しみにしている



低学年では9割以上の子どもたちが、中高学年では9割弱の子どもたちが給食を楽しみにしているという高回答率です。お弁当持参の子どもたちもいます。栄養満点の給食とともに、昼食時間の喜びを味わいたいと感じます。さらに多様な食文化の学びも実施したいと考えています。





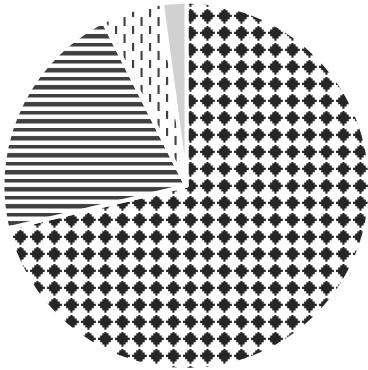
左記、3つの設問において、どの学年も肯定的回答は高いと感じます。

さて、子どもたちにとって「決まり」とはどんなことだと思っているでしょう。全家庭（子どもたち）へ提示している『学校のきまり』でしょうか。普段先生たちから発せられる言葉でしょうか。或いは、一般的にマナーやモラルとして、やってはいけないことでしょうか。

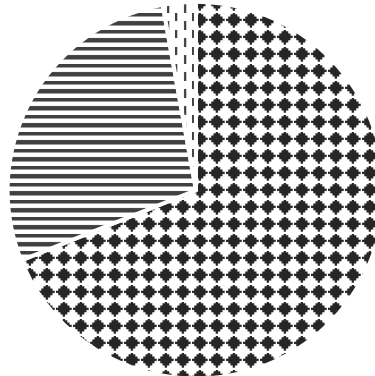
「決まり」と聞くと、何だか固く、窮屈なイメージがありますが、「決まり」は何のためにあるのかと、考えてみましょう。

「みんなが過ごしやすくなるため」端的には『誰もが安心・安全に過ごすため（暮らすため）』のはずです。

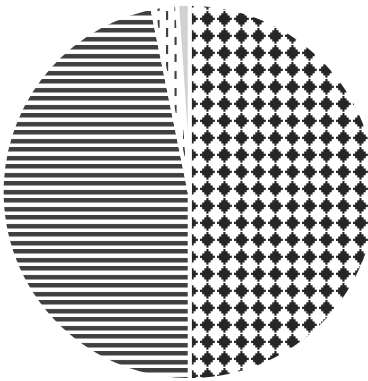
低 先生はいけないことは注意してくれる



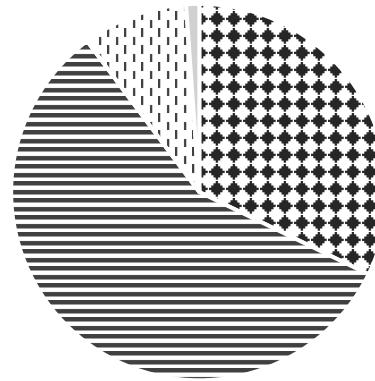
中高 先生はいけないことは注意してくれる



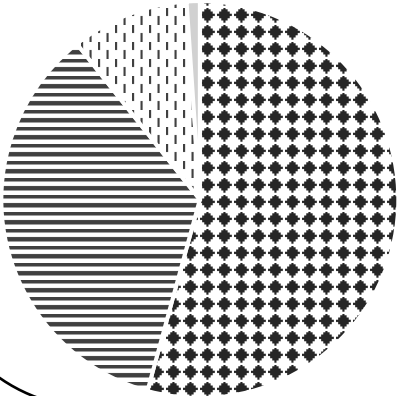
低 学校のきまりを守っている



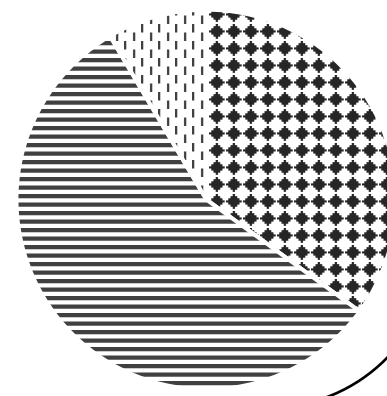
中高 学校のきまりを守っている



低 先生や友だちや学校に来た人にあいさつしている



中高 先生や友だち、来校者に挨拶している



学校での「決まり」は、みんなが安心・安全に過ごすための好ましい行動をさします。

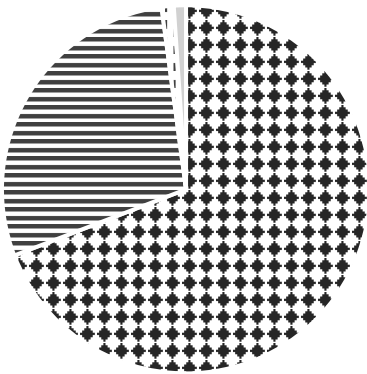
例えば……

- ・廊下の出会い頭でぶつからないようにするためには
  - 廊下や階段を歩く(走らない)
- ・給食のお椀にホコリやゴミ、髪の毛が入らないように
  - 当番はエプロンと帽子(三角巾)を着用する

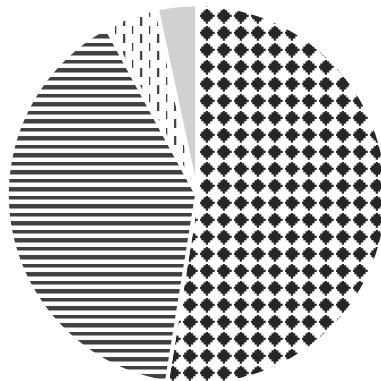
どの教職員も折に触れ、マナーやモラル、ルールの話をしてきています。楽しい学校生活をおくるには、何が大切なのか、今後も子どもたちとともに考えていきます。



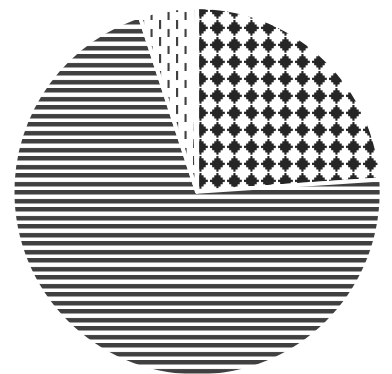
低 先生はわたしたちの話を聞いてくれる



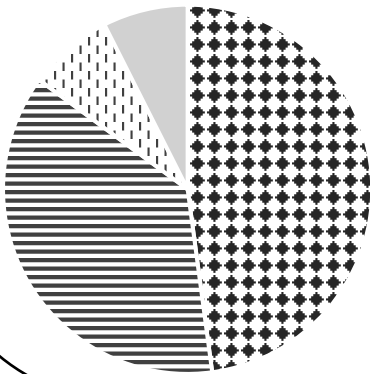
中高 先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる



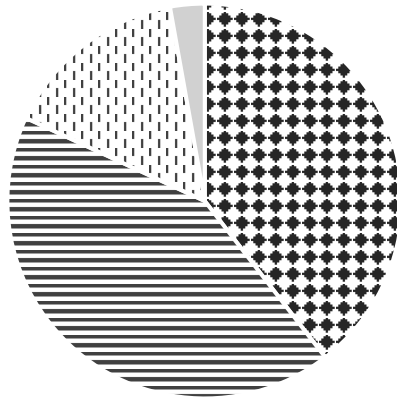
保 教職員は子どものことを理解している



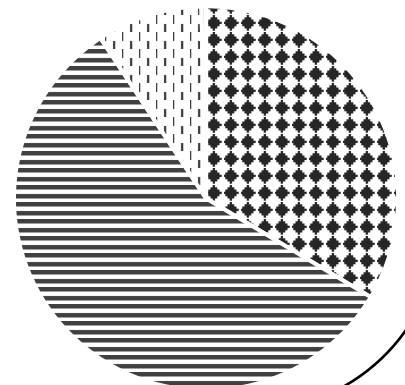
低 担任の先生以外に相談できる先生がいる



中高 担任の先生以外に相談できる先生がいる



保 子どものことについて、気軽に教職員に相談できる



低学年では98%、中高学年では93%の子どもたちが「先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる」と回答しています。今後も一人ひとりの子どもを大切に丁寧な対応を継続していきます。「担任の先生以外に相談できる先生がいる」の肯定的回答は8割強ですが、どの学年も1割以上の子どもたちが担任以外の先生に相談できないことがわかりました。

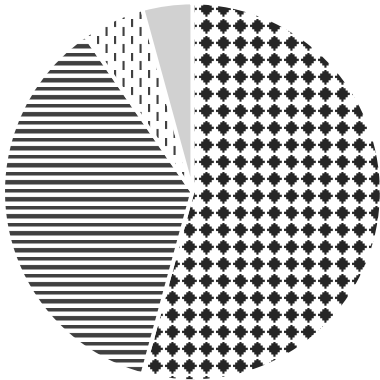
今年度、全校集会や学年集会、学級活動において、「どの先生に相談してもいい」「誰に助けを求めてもいい」「先生たちは決して一人も見捨てないよ」と、伝え続けました。徐々に生徒指導担当教員や養護教諭（保健室）、校長室への相談が増え、子どもたちの中で認知されてきたのか、様々な出来事の初期対応にも成果が出てきています。

また、95%の保護者さまから「教職員は子どものことを理解している」との高い肯定的回答をいただきました。「子どものことを気軽に教職員に相談できる」の設問については、91%と肯定的回答でした。

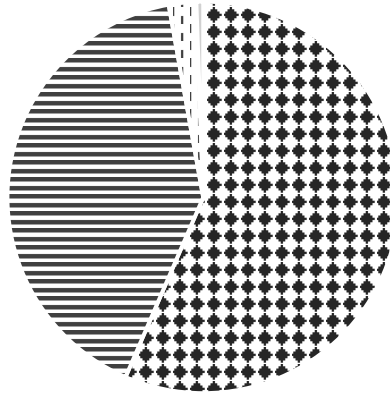
この信頼を裏切ることなく、今後も担任以外の教職員も積極的に子どもたちと関わり、子どもに寄り添える「青小先生チーム」を築いてまいります。



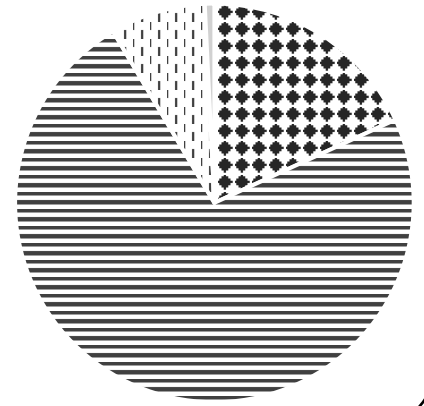
**低** 地震や火災がおこったとき  
不審者が侵入したとき、どう  
したらいいか学んでいる



**中高** 地震や火災がおこったとき  
不審者が侵入したとき、どう  
したらいいか学んでいる



**保** 学校は安心安全な学校生活を  
送れるよう、危機管理に努め  
ている



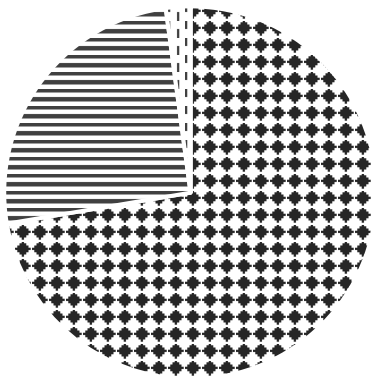
今年度、緊急時(災害・不審者侵入等)に備え、95%の教職員がトランシーバーを携帯して対応できる手立てをとりました。今後、計画的に全教職員が携帯できるよう考えています。

自然災害のほかに、火災や不審者侵入など、予期せぬことが起こることもあります。

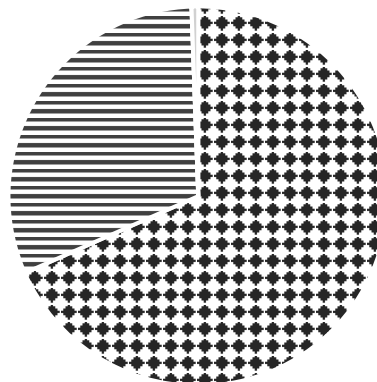
何よりも最優先されるのが、命であり、安全であると考えています。また、未曾有の災害が起きる可能性があることを、大人も子どもも充分理解する必要があると考えます。

いつ・どこで・何が起こっても、まず自分の命は自分で守る力が不可欠です。「いざ」というときにとるべき行動を、継続して育み、子どもたちが安心して学校生活がおくれるよう努めてまいります。

**低** 友だちを大切にすることや命を  
大切にすることを学んでいる



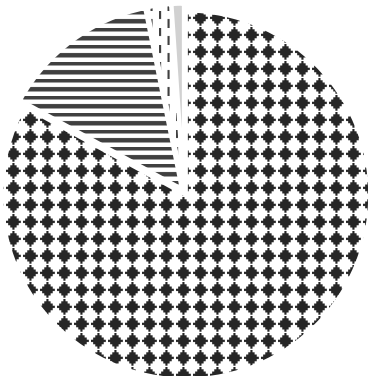
**中高** お互いを大切にすることや  
命の尊さを学んでいる



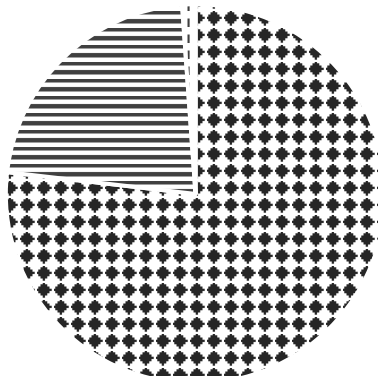
このテーマは、すべての人々がともに暮らす(生活する)中で最も大切なことです。

前設問の考察に記した自分の命は自分で守る力をつけることが第一ですが、自分の力だけでは難しいとき、助けを求めてもいい! いえ、積極的に助けを求めよう! そして求めている友だちがいたら助けよう! とともににはそんな意味を込めました。全設問の中で、一番高い肯定的回答率です。(低学年98%、中高学年99%)教育活動の大きな成果と言えます。そして、この設問にはもう1つ意味を込めています。次の設問と関連していますので、合わせてお伝えします。

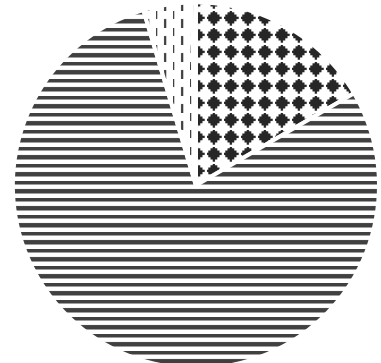
低 いじめはしてはいけない  
と思う



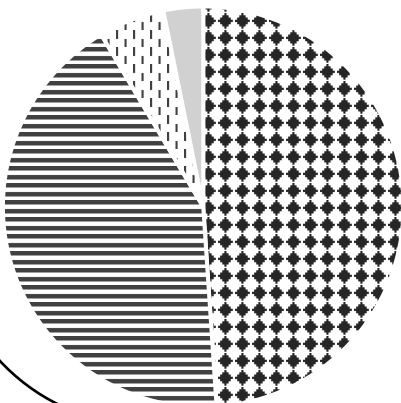
中高 いじめはどんな理由が  
あってもしてはいけない  
と思う



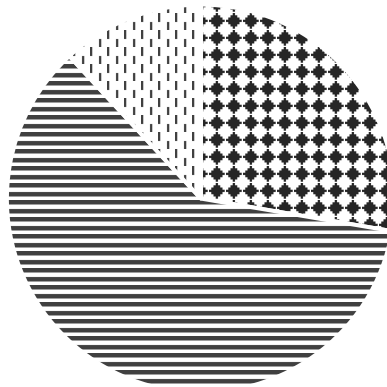
保 学校はいじめのない学校  
づくりに取り組んでいる



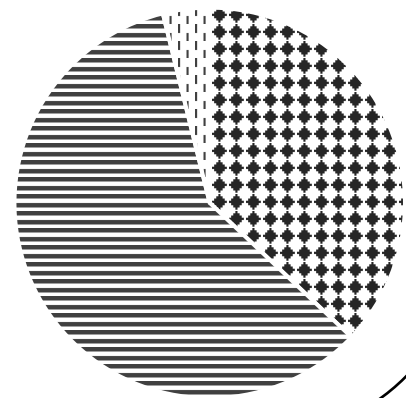
低 あたたかい聴き方、  
やさしい話し方が  
できている



中高 あたたかい聴き方、  
やさしい話し方が  
できている



保 重点取組のインクルーシブ教育  
や多様性教育は大切だと感じる



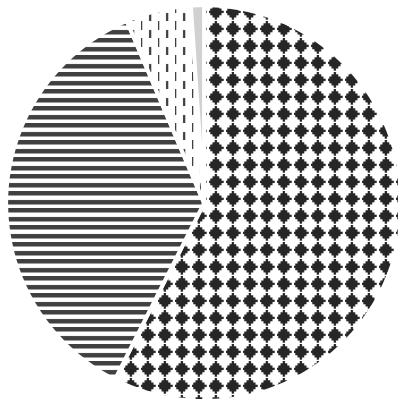
前頁に述べましたが、人々が暮らす社会（学校）では、助け合うことは大切です。それと同時に相手を思いやる気持ちや相手を傷つけないスキルも必要です。「相手を傷つけない心」と告げたいところですが、「傷つく」という主観的な捉えでは、子どもたちの心になかなか届きにくい現状があります。アンケート結果からもわかるように、子どもたちは「いじめ」はしてはいけないと思っています。（低学年97%中高学年99%）ただ、私たち人間は、感情を持つ生きものです。「憎む・羨む・妬む・嫉む・・・」などの感情は誰もが持ち合わせています。感情のまま自分自身で処理できる力があればいいのですが、感情のまま言動を起こすと「いじめ」や「犯罪」に繋がる可能性があります。

そこで、トラブルにならないようなスキルの獲得を考えています。まずは、普段の会話や対話をするときのスキルです。聴くときはあたたかい聴き方をする、話すときはやさしい話し方をする。すべての場面でできることをめざしています。現在、低学年では9割強、中高学年では9割弱の肯定的回答率です。

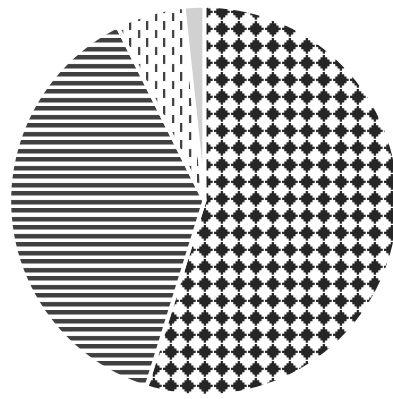
いじめ予防授業「TRIPLE-CHANGE（トリプルチェンジ）」の実施も継続しています。保護者の皆さまから「学校はいじめのない学校づくりに取り組んでいる」「重点取組のインクルーシブ教育や多様性教育は大切だと感じる」の設問において、どちらも96%の肯定的回答をいただきました。今後も期待に応えられるよう、インクルーシブ教育・多様性教育に取り組んでまいります。



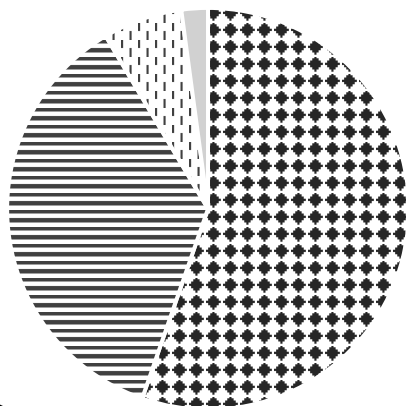
低 先生はがんばったことを  
わかってくれる



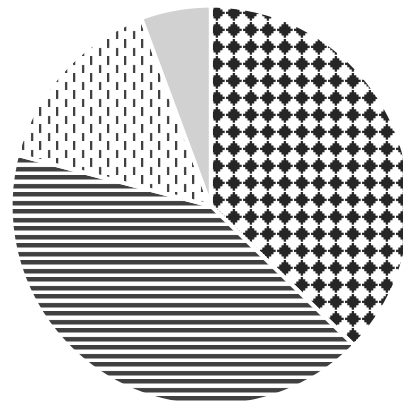
中高 先生は努力したことを認めてくれる



低 自分には良いところがあると思う



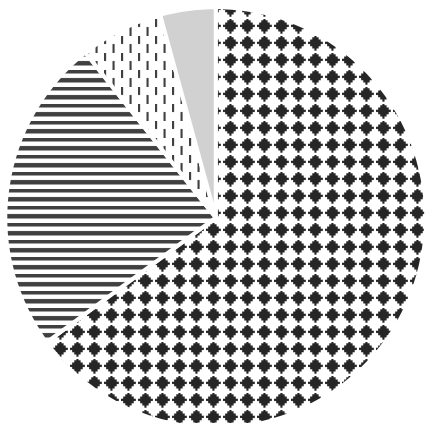
中高 自分には良いところがあると思う



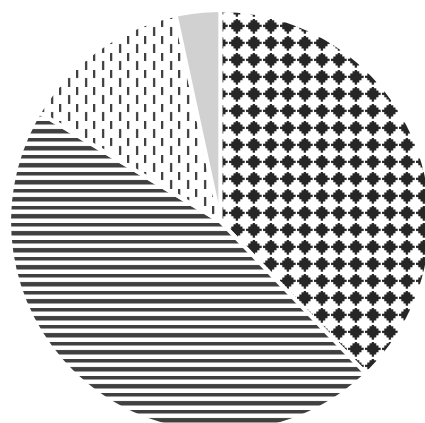
低学年の94%、中高学年の93%の子どもたちが、「先生は頑張ったこと、努力したことを認めてくれる」との肯定的回答をしています。一方で「自分には良いところがあると思う」の肯定的回答率は低学年が91%と若干の差があり、中高学年は79%と14%の開きがあります。79%が低いとは思いませんが、自尊心や自己肯定感、自己有用感が高ければ高いほど、自信に満ちたポジティブな青小っ子になれると信じています。今後も一人ひとりの子どもを大切に丁寧な対応を継続していきます。



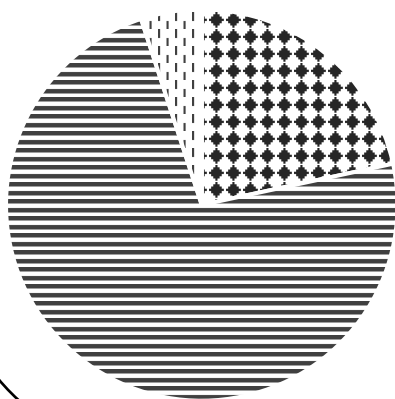
低 地域のいろいろな行事に参加するのは楽しい



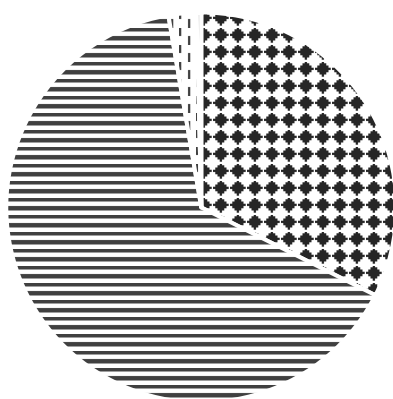
中高 地地域の行事に参加したり、ボランティアの方と一緒に活動することは楽しい



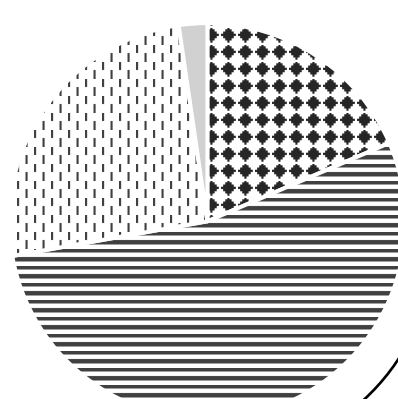
保 学校は、保護者・地域の方々と連携・協力している



保 学校は子どもの様子や教育活動について情報提供を行っている(懇談・通信・HPのブログなど)



保 PTA活動に協力参加している



低学年では9割の子どもたち、中高学年では8割強の子どもたちが、地域行事への参加を楽しく感じています。次年度は地域の方々との連携をさらに密にして、学校教育に参画していただきたく、カリキュラムを整えております。学校の取組みの1つに異年齢交流があります。違う学年の子どもたちと交流することで、互いに気づきがあります。上級生が下級生へ学びを繋げたり、下級生が上級生を助ける場面もあり、取組みが心に響くことも得てしてあるのです。次年度はぜひ、三世代交流、四世代交流等、貴重な触れ合いを企画したいと考えています。

保護者の皆さまへの設問3つです。「学校は保護者・地域の方々と連携・協力している」95%、「学校は子どもの様子や教育活動について情報提供を行っている(懇談・通信・HPのブログなど)」98%、「PTA活動に協力参加している」73%の肯定的回答率でした。

最後に、いつものフレーズです。「チーム青小」は学校と家庭と地域だと考えています。学校での様子や出来事は、できる限り(個人情報保護を踏まえ)皆さまにお伝えしたいという気持ちを持っています。互いに良き理解者であったり、良き相談者であったりして、ともに歩んでいきたいと願っています。